

平成25年度 第7回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成26年3月18日(火) 13:30~15:30
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 11名(1名欠席)  
事務局 中央公民館長、館長補佐、管理係長、分館主査8名(2名欠席)
- 4 傍聴者 2名
- 5 配布資料 (1) 平成25年度小平市公民館定期講座実施状況表・・・資料1  
(2) 行事等開催結果報告・・・資料2  
(3) 平成25年度東京都公民館連絡協議会 関係資料・・・資料3  
①職員部会(第9回)報告  
②職員部会(第10回)報告  
③職員部会ニュース  
④委員部会(第3回研修会)  
⑤第51回東京都公民館研究大会報告  
⑥トリターマ第24号  
(4) 公民館の課題と今後の方向性  
一公民館のあり方検討に関する報告書・・・資料4  
(5) 平成26年度小平市立公民館事業計画(案)・・・資料5  
(6) 平成25年度第6回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・資料6
- 6 次 第 (1) 館長報告  
(2) 平成25年度公民館定期講座実施状況について  
(3) 平成25年度公民館まつり開催報告について  
(4) 平成25年度東京都公民館連絡協議会役員会・職員部会・委員部会報告について  
(5) 『公民館のあり方の検討についての意見書』提出後の経過について  
(6) 平成26年度公民館主催講座について  
(7) その他

## 会議の概要

### 1 館長報告

#### (1) 3月市議会定例会について

##### ①公民館に関連した一般質問について

- ・「仲町図書館を中心としたまちづくりのグランドデザインと展望について」（虻川浩議員）

仲町地域のまちづくりとして、仲町公民館・図書館をどのように位置付け、地域全体をどのようにネットワークさせていくか、そのグランドデザインと今後の具体的な展望について

(答弁) 仲町公民館・図書館は、仲町地域の新たなシンボルとして期待されているものである。小平市観光まちづくり振興プランにおいては、仲町公民館・図書館を小平市の地域資源の一つとして捉え、市内観光のモデルコースやモデルエリアの設計を行う際には、効果的な活用を検討する。

- ・「魅力ある小平を緑と食と文化で発信しよう」（日向美砂子議員）

新築予定の仲町公民館・図書館のカフェラウンジの事業者や市民との協働による活用の提案に関する検討の進捗状況について

(答弁) 人を介してサービスを行うカフェラウンジの設置を計画しており、どのような事業者等に活用をお願いするかについても併せて検討している。

##### ②予算特別委員会について

平成26年度の予算案について全会一致で採択され、本会議で採決される予定となっている。

平成26年度公民館予算の概要

歳入…444万6千円（前年度比－19万円）

歳出…4億1,875万3千円（前年度比＋3,307万8千円）

歳出の増の主な理由は、仲町公民館の備品購入、小川公民館の太陽光発電装置の設置設計、照明機器の高効率化等である。

#### (2) 平成27年度第56回関東甲信越静公民館研究大会について

東京都公民館連絡協議会が運営を担い、平成27年11月13日に小平市のルネこだいらで開催する。平成27年度の会長市は東村山市、大会の担当は西東京市となる。平成26年度から関東甲信越静公民館研究大会の実行委員会を立ち上げ、準備を進めていく。従って、現段階では、平成26年度東京都公民館研究大会の実施を見送り、関東甲信越

静公民館研究大会の準備に専念することになっている。

(質疑応答)

委員 市議会の中で、公共施設マネジメントについての話があった。公民館を含めて、市全体で公共施設について検討することになると思うが、公民館に関わる部分は具体的にどのような検討がされているか。

事務局 現段階では、公民館自体に関する具体的な検討はされておらず、市の公共施設全体について検討している。今年度は施設データ集を作成し、公表した。来年度は施設白書を作成することになっている。

委員 市民から、視聴覚機材（プロジェクター）に関する要望が多く寄せられているが、平成 26 年度予算には計上されているか。

事務局 平成 26 年度予算においては、プロジェクターを未設置の館に 1 台ずつ、計 7 台を設置することを要望したが、財政的に厳しい状況であるため、新仲町公民館と他の分館 1 館に 1 台ずつ、計 2 台を設置することになった。

委員 視聴覚機材と同様に Wi-Fi を導入する考えはあるか。特に若者にとっては、Wi-Fi があるといいという人がいるのではないか。

事務局 Wi-Fi については、中央公民館において無償で導入することを検討したが、難しい状況であった。市全体としてどうするかが問題であるので、今後、公民館として政策課に協議することを考えている。

委員 現在の仲町公民館の跡地の予定について、売却予定とのことだったが、その後、進展はあったか。

事務局 公共施設マネジメントの中で、平成 27 年度に方針を立てる予定である。その中で具体的に検討することになっている。

2 平成 25 年度公民館定期講座実施状況について  
事務局より資料 1 について説明した。

委員 平成 25 年度の講座が大体終了したところで、事業計画と照らし合わせて、全体

の評価としてはどうか。

事務局 まだすべての講座が終了していないので、総括はこれからになるが、平成 25 年度の講座については、地域の人や物等の地域資源を活かすことに少しずつ取り組んできており、趣味教養といった講座に偏ることがなくなってきたと考えている。来年度の事業計画については、さらに地域資源を活かし、今年度実施した公民館のあり方の検討を基に取り組んでいく。

### 3 平成 25 年度公民館まつり開催報告について

事務局より資料 2 について説明した。

第 26 回小平市公民館まつりは、3 月 5 日から展示発表を行い、3 月 8 日、9 日に講演会、舞台発表等を行った。今回は新たに、公民館運営審議会の出展、健康課と連携した、小平市薬剤師会による健康相談会、これまで公民館との関わりがなかった小平第九小学校と小平第十五小学校の児童の作品展示に取り組んだ。

講演会は、小平市内で活動している音楽家の下村雅人さん他 4 人の方を招き、「気軽にクラシックの名曲を一心に響く音楽を訪ねて」を実施した。117 人の来場があり、大変好評であった。

小平市公民館まつりは、毎年度、小平市公民館八館会と公民館職員との共催で開催しているが、年々、互いの関係が密になってきていると実感することができた。

(意見等)

委員 八館会として展示発表に携わったが、参加する団体がさらに増えると、より賑やかになって盛り上がるのではないかと感じた。以前から参加している団体からは、メンバーが高齢化しており、展示する作品の運搬が大変になってきたとの声があった。運搬に職員の手を借りることができれば、より多くの団体が参加できるのではないかと思うので、今後とも協力をお願いしたい。

事務局 今後、各館主査と検討していく。

委員 舞台発表の特別出演に、けやき青年教室の音楽発表があるが、けやき青年教室はどのような事業なのか。

事務局 けやき青年教室は、軽度の知的障がいのある青年を対象に、レクリエーション等の活動を通じて、仲間づくりや居場所づくりに取り組んでいる。この事業の

中で、「けやき青年教室の歌」をつくっており、講座の成果として公民館まつりで発表した。

委員 けやき青年教室は、来年度の講座の回数が減ると聞いたが、なぜ回数が減るのか。

事務局 軽度の知的障がいのある青年を対象にしている事業であり、事業の実施には、スタッフのサポート体制が必要不可欠である。現在、職員とボランティアがスタッフとしてこの事業に従事しているが、スタッフの確保が課題となっている。46人の受講者をサポートしながら、講座の最中に起こる突発的な事態に迅速に対応していく必要があり、少ないスタッフでは、事業を安全に実施することが難しくなる。今年1月の保護者会では、日曜日でなければ参加できない受講者は1人のみであったこと、また、日曜日は職員の人員が十分に確保できず、安全な運営が難しいこと等があり、平成26年度については、あくまで試験的に、日曜日に実施する講座の回数を減らしてみることにした。遠足やサマーツアーについては、これまで通り日曜日を含めて実施する。ボランティアは、現在30人登録しているが、なかなか増えない状況である。今後とも、保護者やボランティアからの要望、他市の状況等を参考にしながら、受講者の安全を第一に考え、実施していく。

委員 シルバー大学の受講者がけやき青年教室のボランティアになっているということを知り、非常に感心している。公民館でボランティア活動をする人を育てるという意味でも、意義あることだと感じた。講座の回数が増えれば良いということではないが、回数を減らしていくことは少し悲しい。また、委員が市民から聞かれることがあるので、減らすのであれば、事前に公民館運営審議会でも説明してほしい。

委員 けやき青年教室の講座回数の減は重要な問題だと感じた。先日の委員部会第3回研修会でも、他市の障がい者青年学級が非常に感動的なパフォーマンスを見せた。ディスカッションの中では、他市でもサポート体制には苦勞していると聞いた。小平市は中央公民館のみで実施しているが、他の講座と違い、卒業がないので、受講者の数はますます増えている。この現状を市として、公民館として、市民としてどのように受け止めるべきか。回数を減らすのではなく、いかにボランティアを増やすかが課題だと感じた。我々もともに対策を考えたい。

委員 公民館活動の中で、すでにボランティアとなる人材が育ってきていると思うの

で、そういう人々が、地域に出て行って活躍できるような取り組みを進めてほしい。

- 4 平成 25 年度東京都公民館連絡協議会役員会・職員部会・委員部会報告について事務局、委員より資料 3 について説明した。
- 5 『公民館のあり方の検討についての意見書』提出後の経過について事務局より資料 4 について説明した。

小平市第二次行財政再構築プランの一環で、平成 23 年度から 3 年間取り組んできた公民館のあり方の検討に関する報告書を提出する。この報告書は、検討の背景、小平市の公民館を取り巻く課題、近年の特徴的な取り組み、今後の方向性及び実施体制等について、公民館運営審議会の意見書等を参考にまとめたものである。今後のスケジュールとしては、平成 26 年度から平成 27 年度までの 2 年間で、検討の見直しを進める予定となっている。

(意見等)

- 委員 今後の実施体制について、現段階では、市民運営を最終目標とせず、将来的な可能性の一つとして検討することのだが、なぜ公民館が市民運営になるのかの説明がなければ、市民からすると、昨今の市民主導に便乗しているだけではないかと感じられる。公民館運営審議会委員も藤沢市の市民運営による公民館を視察して、市民運営に危険を感じたので議論をしてきた。なぜ市民運営するのかを十分に説明すべきだと感じた。また、個人の教養を高めるのではなくとの記載があるが、やはり個人の教養も高める必要があり、そのうえでコミュニティづくりを推進するのが公民館の役割だと思う。
- 委員 緩やかな地区割りということで、11 館の公民館をおおむね小学校区に分けて地域社会に貢献することのだが、子ども向けの行事は、学校だけでなく、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会、町会等、さまざまな場で催されており、学年が上がるにつれて参加しなくなる子どもを、いかに集め、交流を深めることができるかが共通の課題となっている。その点については、公民館も同様だと思うので、積極的に取り組んでほしい。
- 委員 顔の見える関係をつくったり、地域の人材を活かすためには、職員も公民館の利用者が見えていないと難しいのではないかと。結いカフェでは、利用者と職員

と一緒に公民館について考えていこうということを謳っている。一緒にやるという意識が職員にどこまであるのかと疑問に感じた。また、社会教育の枠を超えた事業の展開という記載があるが、公民館ではなくなったところを目指していくのか。

事務局 公民館的な機能を維持しつつとしているので、公民館をなくそうとするのではなく、さらに発展させて、協働の拠点として、もっと効率的、効果的に運営できる可能性があるという考え方である。

委員 ボランティアの確保が難しいという話があったが、公民館の利用者懇談会も高齢化が進み、若者が来たとしても、なかなか主体的に参加できないようだ。人をいかに集め、育てていくかが課題だと感じた。ボランティア等、無償で人を集めることに主眼を置いているが、行き詰まるのではないか。嘱託職員として雇用することも視野に入れてみてはどうか。

委員 各公民館とも老朽化しており、いずれ建替えを進めることになると思うが、仲町公民館のように、観光的な面より、実務的、機能的な面を重視して、計画してほしい。そうすることで、予算的な負担はそれほどかからずに済むのではないか。

委員 人材の問題は非常に重要だ。公民館運営審議会でも人材バンクの話が出ていたが、人材バンクを持っていないと、有効な人材活用はできないのではないか。報告書の社会教育の枠を超えた事業の展開については、社会教育の理想は維持されるべきだと思うが、福祉等の他分野との協働は必要であると感じている。枠というと、社会教育が何か閉鎖的なもののように思われて、社会教育を担っている公民館が自らを制限しているような感じがする。もう少し広がりのある表現にしたほうが良いのではないか。また、施設の建替えによる統廃合も、深刻な問題になり得る。公民館を維持するという意識を持って取り組んでほしい。

委員 最終的に民営化を前提にしているのかと思っていたが、報告書では、その面は抑えられていると感じた。財政的に厳しい状況でもあるので、効率的な運営方法を考えていかなければならないのも実情だと思う。公民館に関わっている人の意見は大体既成的なものなので、公民館に関わっていない人のアイデアもあれば、視野を広げることができるのではないか。市内の大学と連携して事業を進める等、財政面を抑えながら、何か工夫してできることはないか、引き続き検討してほしい。

事務局 平成 26 年度から、公民館のあり方の検討の見直しを進めていく。これまで以上に、職員が地域に出て、より積極的に地域リーダーとの関係づくりをしていかなければならないと感じている。地域との関係をつくりながら、事業に活かすよう心がけていく。

## 6 平成 26 年度公民館主催講座について

資料 5 について事務局より説明した。

平成 26 年度の事業計画では、公民館のあり方の検討を踏まえ、多様な人々に、いかに公民館に足を運んでもらうかを大きなテーマとしている。その他、公民館講座のための意見交換会で寄せられた意見を反映させ、特に、地域の人や物等の地域資源を活用することに重点を置き、取り組んでいくことを盛り込んだものとなっている。

(意見等)

委員 どのような内容の講座をやるのかということだけでなく、どのような人を講座に呼ぶか、講座終了後にどうするか、具体的な取り組み方は明確になっているのか。

事務局 推進事項を達成するために、講座終了後は、点検・評価できるよう工夫したい。

委員 事業計画に明記されていないと、実現しにくいのではないかと。公民館に市民活動や NPO の情報を掲示したり、自治会等と連携しながら、情報交換をし、それをどのように活用するか等の具体的な案を示し、実行に移していくのがいいのではないかと。

事務局 今年度から、PDCA サイクルを意識して、講座の企画書・報告書を改善した。その中で、講座終了後の活動にいかに発展させていけるかを分析している。

委員 講座受講者の自主サークル化とともに、サークル同士の交流やつなげる仕組みを考えてほしい。

## 7 その他

(1) 仲町公民館・図書館の建替え工事の進捗状況について

- (2) 中央公民館ブロック塀改修工事について
- (3) 次期公民館運営審議会公募委員の選考結果について

平成 26 年度第 1 回公民館運営審議会は、4 月 15 日（火）午後 1 時 30 分より、中央公民館会議室にて開催する。